

自然豊かな川づくりを



自民党の足立敏之参院議員は、学識者や河川環境関連団体とともに、多自然川づくりの先進地であるスイスを訪れ、治水と環境が調和した取り組みの事例を調査した。写真。河川を本来の姿に戻す再自然化事業などについて現地関係者から説明を受け、

足立参院議員 スイスで先進事例調査

「日本の川はもっと自然豊かである必要があるのではないかと、改めて感じた。調査した事例を国土交通省などに今後紹介し、そういうことをもっと考えるきっかけにしたい」と話している。

辻本哲郎名古屋大名誉教授を団長とする調査団の一員として、チューリッヒの近郊を流れるライン川や、その支川であるリマト川、トゥール川、ロイス川などを9月2―5日に調べた。調査は2019年9月に続く2回目となる。高水敷の切り下げによるれき河原の再生や、低水護岸の撤去による再蛇行化に取り組んでいるトゥール川は、前回

に続く再訪問で、「4年前より河原の状況が改善されていた」と評価する。

ロイス川では、河川堤防と高速道路の分野が異なる二つのインフラで氾濫への多重防御を行っている現場を訪問した。氾濫時に高速道路上を伝って堤防からあふれた水を川へ流す取り組みで、人家の移転が必要な河道拡幅を実施しなくて済むメリットがある。足立参院議員は、ダイナミックな取り組みに驚いたとし、「まさに流域治水。さまざまな施設を使うという点で、日本の流域治水も発想の転換が今後必要になってくるのではないか」と指摘する。